

玉川には 伝統が息づく



平鉦踊り

笛や太鼓の調子に合わせ、笠鉦を先頭に円陣を組み、威勢の良い掛け声と共に踊る平鉦踊りは実りの秋の感謝を象徴する。



浦安の舞

大雷神社と川辺八幡神社で奉納される浦安の舞は、神聖でおこなな優雅さが漂う。



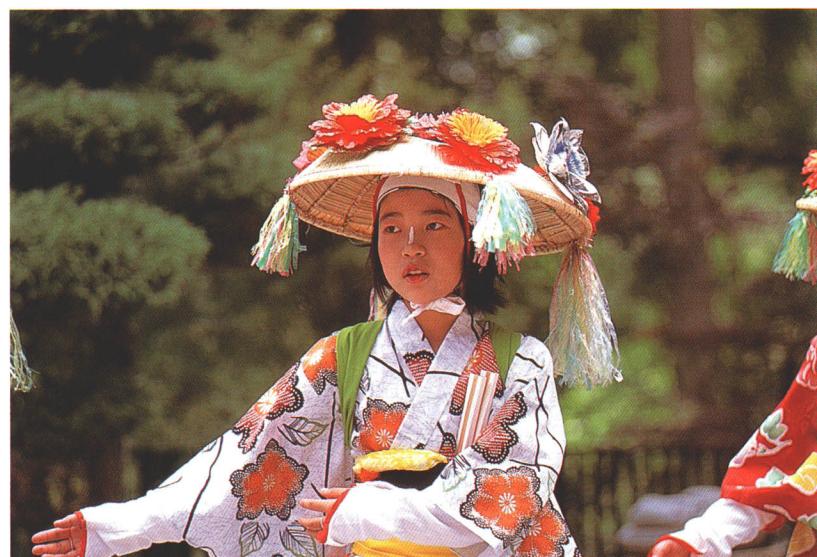
三四獅子舞

女獅子・太郎獅子・次郎獅子が主役となる三四獅子舞は、宮参り、餅つき、居眠り、女獅子うばいなどの数曲で構成される。



笛二名・鉦一名・歌方七人八人が奏でる曲と歌にあわせて、立ち踊りと座踊りが披露されます。伝えられていく曲目は九曲で、歌の終わりに「えこうじようぶつ、なむあみだぶつ」とお囃子がはいります。真夏の炎天下、新盆供養の家々を練り歩く静かでおこなな光景に出会うとき不思議と心打たれるものがあるのは、普段忘れている日本の原風景を垣間見た気がするからではないでしょうか。

念仏踊りの他にも子どもたちによって伝承されている踊りがあります。北須金地区に残る三匹獅子舞は、寛永十六年に都々古別神社葺き替えの祭典の際に氏子によって奉納されたことが始まりの勇壮な舞。後世に残そうと北須金地区で特別な行事のときに演じられています。また「平鉦」という民俗芸能が各地区で明治時代まで数多く残り、鎮守神社に奉納されてしまいました。現在は秋祭りに小高、竜崎、北須金、南須金、山小屋の各地区で踊られるだけとなりましたが、平鉦



を持つて踊る姿は、農耕民族として神社本殿で披露される浦安の舞は、巫女装束に花簪をした少女たちが鈴を手に持ち、世界の平穏を祈念して、おこそかに舞う優雅なもの。夏休みを迎えた子どもたちにより、毎年、真剣に稽古が行われています。このように玉川には人々の祈りと厚い信仰が育んだ多くの伝統的な踊りが保存されています。万物や神を崇め、先祖の魂を鎮めるさまざまな踊りは、いにしえの人々が残してくれた大切な祈りの文化だと感じるのであります。